

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	樹木の里親制度推進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	樹木の里親制度推進事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	管理係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	樹木の里親制度実施要領	目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					その他市民に対する事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	植上町、植野町（台南）、植野町（泉）、上台町の4町会を対象に「医師会通り」の樹木の里親を募集し、平成6年度から樹木に里親の名札を掲示し、樹木の根本の除草や乾燥時の散水等の管理をお願いしている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	緑に対する関心を深めていただき、快適な住環境を創出する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		樹木の里親数	人	36	36	36	36	36

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	<ul style="list-style-type: none"> 4～3月 医師会通りの街路樹について里親を指定 6月 里親へ作業用物品（軍手・ごみ袋）の配布 3月 老朽化した名札の取替え 	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		老朽化した名札の取替え数	枚	0	33	33	
		事業費計	千円	38	82	92	
		一般財源	千円	38	82	92	
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	千円	0	0	0	

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	市民にして樹木の根本の除草や散水などを行っていただくことによ て、市民一人ひとりの「緑」に対する理解が深まっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6</td
------------------	------------------	------	----	----	----	--------

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	橋りょう維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	橋りょう維持補修事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	道路法	目	4	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	危険度の高い橋梁を緊急的に補修するとともに、老朽化の激しい橋梁の改築を計画的に実施し、安全かつ円滑な交通を確保する。
	橋りょう数 599橋（うち木橋 4橋） 歩道橋 2橋

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市道に架かる橋梁の危険箇所の修繕を行い、危険箇所に起因する事故の発生を未然に防止する。 (修繕工事を実施した橋梁数(木橋含む)÷市道に架かる橋梁)	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		実施した橋梁数÷市道に架かる橋梁数	%	1	1	1	1	1
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1
		橋梁長寿命化計画の進捗率	%		7.7	11.5	23.1	34.6

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・道路パトロールで発見した危険箇所等と利用者からの情報提供ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕。（3箇所） ・道路構造物定期保守点検事業で要修繕と診断を受けた、橋梁小破修繕（13箇所）や老朽化した橋梁（木橋含）の修繕工事（8箇所）等を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		修繕工事を実施した橋梁数	橋	3	3	3		
		修繕工事を実施した木橋数	橋	0	2	3		
		事業費計	千円	6,705	16,503	22,098		
		一般財源	千円	6,705	16,503	22,098		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、緊急的な補修や橋梁点検し判定Ⅲとなった橋を1橋の補修を行い、橋梁長寿命化計画の進捗率を上げることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		実施した橋梁数÷市道に架かる橋梁数	%	0.5	0.8	1.0	値が大きいほど良い	効果が上がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		橋梁長寿命化計画の進捗率	%	3.8	15.4	16.7	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断					効果
		効果が上がった指標数	2指標					
		効果は変わらない指標数	1指標					
		効果が下がった指標数	0指標					
		指標全体	効果が上がった					

費用	費用が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し		

費用が増加した	○
---------	---

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は、工事発注に向けた検討に時間を要したが、修繕工事等の発注は概ね予定通り達成できた。
令和7年度は、工事発注の検討をすみやかに行い、余裕を持った発注をしていく必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明

- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

工事発注に向け早期に準備を整え、着実に実施する。また、スケジュール管理を徹底し遅延した場合は見直しを実施する。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	橋りょう長寿命化事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	橋りょう長寿命化事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	道路法	目	4	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H25	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり			終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	橋りょう長寿命化修繕計画に基づいて、従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防保全的な修繕及び架け替えへと政策転換を図り、橋りょうの長寿命化並びに費用の縮減・平準化を図りつつ、地域の安全性・信頼性を確保する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	長寿命化修繕計画をもとに、従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な政策転換を図る。（道路構造物定期保守点検事業の点検結果により、計画の改定が必要）	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		実施橋梁数（累計）	箇所		2	3	6	9
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1
		橋梁長寿命化計画の進捗率	%		7.7	11.5	23.1	34.6

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	《工事》 【完了】 ・市道梅木線梅木橋橋梁補修工事（秋山町） 【継続】～R7年度 ・市道9001号線高橋橋梁補修工事（飛駒町） ・市道236号線中木戸橋橋梁補修工事（飛駒町） 《委託》 ・吾妻33号橋（下羽田町）、下町屋橋（仙波町）、京路戸橋（多田町）の調査設計等業務	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		長寿命化修繕工事実施橋梁数	橋	1	2	1		
		事業費計	千円	34,969	50,083	62,447		
		一般財源	千円	2,587	8,543	33,447		
		特定財源（国・県・他）	千円	32,382	41,540	29,000		
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	市道橋601橋について、点検し判定Ⅲとなった橋について、補修工事を行い、長寿命化を図る。 令和6年度は、2橋の補修工事を行い、橋梁長寿命化計画の進捗率を上げることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		実施橋梁数（累計）	箇所	1	4	5	値が大きいほど良い	効果が上がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		橋梁長寿命化計画の進捗率	%	3.8	15.4	16.7	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
			効果が上がった指標数			効果が変わった	効果が下がった
			2指標				
			効果は変わらない指標数				
			1指標				
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が下がった指標数		効果が下がった指標数				
			0指標				
費用 (R6とR5の 指標値増減)	指標全体		効果が上がった				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度までに計3橋の修繕工事を目標としていた中、計1橋の完了及び、計2橋の補修工事着手を達成できた。
令和7年度は、国庫補助の内示率向上の取組みを進め、完了橋梁数を増やしていく必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明
□ 事業効果を上げるための事務改善の検討	修繕を予定している橋梁の修繕を着実に実施する。
□ 事業費の見直し検討	また、今後橋梁点検結果による修繕実施箇所等の予定を見直す必要がある。
□ 業務時間効率化のための事務改善の検討	
□ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	街路樹維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	街路樹維持管理事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5212	名称		目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり			終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	街路樹を良好に保つために、専門業者に業務を委託し、適正に維持管理する。 業務委託内容：剪定、除草、害虫防除等
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	街路樹が適切に管理されている。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市民からの苦情・要望件数	箇所	-	-	-	-	-
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	市道44路線の街路樹について、夏季に剪定、除草、害虫防除等を9件の業務委託により行った。また、市道14路線の街路樹について冬季剪定を9件の業務委託により行った。その他、枯損木の伐採業務委託を2件実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		高木剪定	本	1,584	1,080	1,237		
		低木防除	m ²	10,004	10,041	10,217		
		除草	m ²	23,064	22,994	23,492		
		事業費計	千円	44,561	44,612	46,030		
		一般財源	千円	44,561	44,612	46,030		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、例年どおり街路樹を計画的に維持管理することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市民からの苦情・要望件数	箇所	9	6	15	値が小さいほど良い	効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	効果（R6とR5の指標値増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断					効果
		0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった			
		1指標						
		1指標						
		指標全体	効果が下がった				○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は、市民からの苦情及び要望等については、すべて対応したことにより達成できた。
令和7年度も引き続き同様に対応していく。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明

□ 事業効果を上げるための事務改善の検討

□ 事業費の見直し検討

□ 業務時間効率化のための事務改善の検討

□ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

市民からの苦情及び要望等については、速やかに対応する。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	認定外道路維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	認定外道路維持補修事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	都市計画法、地方分権一括法、建築基準法、佐野市公共物管理条例	目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり			終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	国から譲与を受けた法定外公共物（赤道等）と、開発行為等により帰属を受けた道路の破損箇所の補修を実施し、交通の安全を確保する。 認定外道路延長 1万km以上
------	--

（2）目的

（3）目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	認定外道路の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所に起因する事故の発生を未然に防止する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	-	-	-	-	-
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	道路パトロールで発見した危険箇所と利用者からの苦情ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕 ・老朽化し、交通安全上、危険がある認定外道路の緊急的な補修及び小破修繕 ・老朽化し、交通安全上、危険がある認定外道路の舗装の打ち替え工事 ・老朽化し、交通安全上、危険がある認定外道路の側溝の修繕工事	活動指標	単位	R4	R5	R6
		維持・修繕を実施した箇所数	箇所	110	107	127
		舗装修繕工事の実施延長	百m	2	1	1
		側溝修繕工事の実施延長	百m	0.0	0.1	0.0
		事業費計	千円	8,082	17,475	12,627
		一般財源	千円	8,082	17,475	12,627
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、利用者からの依頼やパトロールで発見した危険箇所はおおむね対応することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	166	145	177	値が小さいほど良い 効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い 効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断			効果 効果が上がった 効果は変わらない 効果が下がった 費用は下がった 費用の増減無し 費用が増加した
		効果が上がった指標数	0指標		
		効果は変わらない指標数	1指標		
		効果が下がった指標数	1指標		
		指標全体	効果が下がった		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は、利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を処理し、打ち換え等の修繕工事も実施したことにより対応できた。 令和7年度も引き続き同様に対応していく。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を速やかに処理するとともに、舗装打ち換え等の修繕工事を推進する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	道路構造物定期保守点検事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	道路維持補修事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	道路法	目	4	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H27	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり			終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	平成26年7月、道路法施行規則の改正に伴い道路橋等構造物について、5年に1回の近接目視による定期点検が規定された。これに基づき適切に定期点検を行い、施設の長寿命化を図るための修繕を行い、地域の道路網の安全かつ円滑な交通の確保を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	定期点検の実施により各施設の健全性を分類し、H23年度に策定された長寿命化修繕計画と同様に従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な道路施設の長寿命化を策定していく。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		道路橋定期点検数÷支間2m以上の道路橋数	箇所	19.0	19.8	20.0	20.0	20.0
		横断歩道橋の点検数÷横断歩道橋数	%	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1
		橋梁長寿命化計画の進捗率	%		7.7	11.5	23.1	34.6

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・橋梁点検業務委託 113橋	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		道路橋定期点検数	箇所	119	123	113		
		横断歩道橋点検数	箇所	1	1	0		
		事業費計	千円	27,071	23,683	24,255		
		一般財源	千円	12,221	10,769	10,915		
		特定財源（国・県・他）	千円	14,850	12,914	13,340		
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	市道橋601橋について、点検し判定Ⅲとなった橋について、補修工事を行い、長寿命化を図る。 令和6年度は、113橋の点検を行い道路網の安全かつ円滑な交通の確保を図った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		道路橋定期点検数÷支間2m以上の道路橋数	箇所	19.8	20.5	18.8	値が大きいほど良い	効果が下がった
		横断歩道橋の点検数÷横断歩道橋数	%	50.0	50.0	0.0	値が大きいほど良い	効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		橋梁長寿命化計画の進捗率	%	3.8	15.4	16.7	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	市道橋601橋について、点検し判定Ⅲとなった橋について、補修工事を行い、長寿命化を図る。 令和6年度は、113橋の点検を行い道路網の安全かつ円滑な交通の確保を図った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		道路橋定期点検数÷支間2m以上の道路橋数	箇所	19.8	20.5	18.8	値が大きいほど良い	効果が下がった
		横断歩道橋の点検数÷横断歩道橋数	%	50.0	50.0	0.0	値が大きいほど良い	効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果	効果が上がった指標数	1指標			
				効果は変わらない指標数	1指標			
				効果が下がった指標数	2指標			
				指標全体	効果が下がった			
								○

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

全橋梁数約600橋のうち年間約120橋の点検を行い、5年間で全橋梁の点検を行うこととしており、令和6年度は、約120橋の点検を予定通り発注し完了することができた。令和7年度も引き続き同様に対応していく。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
点検業務に要する費用については、国費が必要であることから財源確保に努める。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	道路維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	道路維持補修事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市道及び認定外道路の除草、除雪及び清掃等や破損箇所の補修作業に必要な機械経費等の経常経費
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	市道及び認定外道路の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所に起因する事故の発生を未然に防止する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	-	-	-	-	-
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	市道及び認定外道路の除草、除雪及び清掃等 破損箇所の補修作業に必要な機械の維持管理等	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		維持・修繕を実施した箇所数	箇所	824	826	943		
		事業費計	千円	12,285	12,816	8,318		
		一般財源	千円	12,285	12,816	8,318		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、利用者からの依頼やパトロールで発見した危険箇所はおおむね対応することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	1,066	1,097	1,216	値が小さいほど良い	効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	効果指標	単位	R4	R5	R6		
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	1,066	1,097	1,216	値が小さいほど良い	効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が下がった指標数 0指標	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		効果が変わらない指標数	1指標				効果が上がった	効果は変わらない
		効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった	効果は変わらない
		指標全体	効果が下がった					

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は、道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕は、未処理が若干残ったため達成できなかった。
令和7年度は、現場確認、対応方針検討等をすみやかに行って必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組	取組説明
	道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を速やかに処理する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	市道維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	市道維持補修事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	道路法	目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	2	生活道路の整備					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	交通量の増大及び車両の大型化並びに舗装の老朽化により、道路の損傷は著しいものがあり、安全かつ円滑な交通を確保するため、恒常的な業務として細かな維持補修に努める。 市道数：3,096路線 市道延長：1,156km（うち舗装済延長 916km）
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市道の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所に因する事故の発生を未然に防止する。 (舗装打ち換えサイクルの理想値は10%)	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	-	-	-	-	-
		舗装修繕工事の実施延長÷市道の舗装延長	%	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	道路パトロールで発見した危険箇所と利用者からの苦情、ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕 ・老朽化し、交通安全上、危険がある市道の緊急的な補修、小破修繕 ・老朽化し、交通安全上、危険がある市道の舗装の打ち換え工事 ・老朽化し、交通安全上、危険がある市道の側溝の修繕工事	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		維持・修繕を実施した箇所数	箇所	714	708	813	
		舗装修繕工事の実施延長	Km	7.6	8.8	5.6	
		側溝修繕工事の実施延長	m	916	786	909	
		事業費計	千円	414,284	420,555	418,571	
		一般財源	千円	414,284	420,555	418,571	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、利用者からの依頼やパトロールで発見した危険箇所はおおむね対応することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	900	915	1,031	値が小さいほど良い 効果が下がった
		舗装修繕工事の実施延長÷市道の舗装延長	%	0.8	1.0	0.6	値が大きいほど良い 効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.9	59.9	59.9	値が大きいほど良い 効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断	効果			
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
			0指標			
			1指標			
			2指標			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度は、予定していた舗装打ち換え工事等について、実施延長が増加したが完了することができた。道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕については未処理が若干残った。
令和7年度は、小規模修繕については、現場確認、対応方針検討等を速やかに行っていく必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明		
	道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を速やかに処理するとともに、舗装打ち換え等の修繕工事を推進する。		

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	建築基準法第42条第2項道路整備指導事業		実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
			施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	建築指導課		建築基準法第42条第2項道		款	8	新規or継続	継続事業
	係	指導係		路整備指導事業		項	1	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	5212	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	佐野市建築行為等に係る道		事業	H16	実施方法	直営
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり	路後退用地の整備要綱、佐		期間	終了年度	-	事業分類
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備	野市後退用地分筆費用補					その他市民に対する事業
	基本事業	2	生活道路の整備	助金交付要綱					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	・建築基準法第42条第2項の規定により指定された道路の後退用地を整備する。
	・後退用地を明示するための杭を支給し、市へ後退用地無償使用承諾書を提出してもらう。

・2項道路の後退用地において、寄附及び無償使用承諾が得られた土地について、面する道と整合するような整備を行う。

・2項道路の後退用地部分を市に寄附した場合、測量分筆登記にかかる費用について補助を行う。

（2）目的

（3）目標値

目的 (本事業に よって成し 遂げたい 状態)	法令に定められた道路幅員が確保されると共に道路用地として整備されることで、快適な住環境と災害に強い都市となる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		整備件数/(無償使用承諾書+寄付件数)	%	76	76	76	77	77

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・後退用地の整備(工事請負費) 30か所 14,047,000円 ・後退用地分筆補助 68件 19,585,000円	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		無償使用承諾書	件	30	27	15	
		後退用地寄付件数	件	77	50	68	
		事業費計	千円	36,439	28,723	33,632	
		一般財源	千円	17,178	11,773	18,115	
		特定財源（国・県・他）	千円	19,261	16,950	15,517	
		(うち受益者負担)	千円				

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	工事による整備件数の減に対し、無償使用承諾及び寄付件数の 増となつたことで、過去2年より低い指標となつたが、後退用地の道 路整備が着実に行われたことにより、安心安全なまちづくりに寄与し ている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		整備件数/(無償使用承諾書+寄付件数)	%	43.0	57.1	36.1	値が大きいほど良い 効果が下がつた

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がつた指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がつた指標数 1指標
	指標全体 効果が下がつた

※ 10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がつた	効果は変わらない	効果が下がつた
費用は下がつた			
費用の増減無し			
費用が増加した			○

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

無償使用承諾書及び寄附された方から早期整備の要望があるが、物価高騰により1件当たりの工事価格が値上がりし、整備工事件数が減少傾向にある。また、土木建設工事において週休二日制が普及し始めており、工事期間確保とともに積算への影響を考慮しなければならない。
国庫補助が要望に対し不十分な交付額となっており、整備個所数への影響を与えている。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
①国庫補助を継続して要望する ②工事週休二日制を考慮して積算及び発注する

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	市道道路改良事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度	
	課	道路河川課	市道道路改良事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路建設係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5212	名称	道路法、道路構造令	目	3	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度		事業分類	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設等整備事業	
	基本事業	2	生活道路の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市道の改良、側溝、舗装の整備を実施することにより、生活基盤及び生活環境の向上を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	・改良要望箇所の整備 ・側溝要望箇所の整備 ・舗装要望箇所の整備	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		改良工事完了箇所	箇所	2	4	1	2	3
		側溝工事完了箇所	箇所	2	0	2	0	2
		舗装工事完了箇所	箇所			1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	道路改良工事 10 件 L=346.7m 道路側溝工事 1件 L=157.0m 道路舗装工事 1件 L=215.2m	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		改良工事延長	m	439.5	177.0	346.7	
		側溝工事延長	m	0.0	168.3	157.0	
		舗装工事延長	m	799.5	965.0	215.2	
		事業費計	千円	103,349	127,639	119,609	
		一般財源	千円	23,349	3,389	50,899	
		特定財源（国・県・他）	千円	80,000	124,250	68,710	
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	要望箇所の工事が完了したこと、利便性の向上と安全に利用で きる道路が整備された。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		改良工事完了箇所	箇所	4	0	2	値が大きいほど良い 効果が上がった
		側溝工事完了箇所	箇所	0	2	1	値が大きいほど良い 効果が下がった
		舗装工事完了箇所	箇所		3	1	値が大きいほど良い 効果が下がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果			
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

道路整備は市民生活の基盤を成すものであることから、市民の要望は極めて高く、事業量は依然として膨大なものである。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明		
	・佐野市市道道路改良整備評価委員会に基づき効率的に整備を進める。	・測量、設計、用地買収、工事と各要望箇所の継続的な推進が必要である。	
□ 事業効果を上げるための事務改善の検討			
□ 事業費の見直し検討			
□ 業務時間効率化のための事務改善の検討			
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）			

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	公共下水道雨水幹線整備事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	上下水道局	予算中事業名	予算 科目	会計	下水道	事業計画	単年度繰り返し
	課	下水道課	公共下水道雨水幹線整備事業		款	新規or継続	継続事業	
政策体系	係	下水道建設係	公共下水道雨水幹線整備事業		項	市単独or国県補助	国県補助事業	
	体系コード	5213	名称		目	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	下水道法 都市計画法	事業 期間	開始年度 S46	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設等整備事業
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					
	基本事業	3	雨水排水路の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	本事業は、降雨による浸水被害の解消・軽減を図るため、公共下水道における雨水幹線等を整備することを目的としています。事業の実施にあたっては、関係法令による事業認可等を取得し、計画的に雨水幹線等の整備を実施します。
------	---

（2）目的

目的 (本事業に よって成し 遂げたい 状態)	公共下水道区域内において、降雨による浸水被害の解消・軽減を図る。（雨水幹線等の計画総延長：28,532m）	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		雨水幹線排水路の整備率 (整備済延長/計画総延長)	%	64.7	62.4	63.2	63.9	64.7

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	◎令和5年度からの縁越工事（完成） ・東部9号雨水枝幹線（大伏下町） L=84.0m ・東部9号雨水枝幹線（栄町） L=131.6m	活動指標	単位	R4	R5	R6
	◎令和6年度工事（完成） ・なし	整備延長（単年度）	m	168.4	226.1	215.6
	◎令和6年度工事（令和7年度へ縁越） ・中部1-1号雨水非常時排水施設（天神町） L=50.2m ・中部1-1号非常時排水ポンプ（天神町） 一式 ・東部4号雨水幹線（鎧塚町） L=23.0m ・東部9号雨水枝幹線（栄町） L=178.8m ・東部14号雨水幹線（栄町） 雨水幹線2箇所 (令和7年度への縁越額273,592千円)	整備済延長（累計）	m	17,700	17,926	18,142
		事業費計	千円	124,765	165,686	176,338
		一般財源	千円	24,929	16,403	26,160
		特定財源（国・県・他）	千円	99,836	149,283	150,178
		（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	・整備率は63.6%となり、前年度より0.8ポイント上昇した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		雨水幹線排水路の整備率 (整備済延長/計画総延長)	%	62.0	62.8	63.6	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
費用	効果が上がった	効果は変わらない
	効果が下がった	効果が下がった
費用の増減無し		
費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

- 建設資材の高騰や人件費の上昇等により工事価格が上昇傾向であり、整備延長が伸び悩んでいる。
- 工事規模や渇水期施工、資材の納入時期の遅れなど、近年は工事の工期に影響を及ぼす要因が多くなってきている。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	予算を増額することで成果を向上させることはできるが、財政状況や社会情勢、現場状況等を踏まえた予算規模とすることも必要である。
------	--

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	一般排水路清掃支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	一般排水路清掃支援事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	管理係			項	3	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5213	名称	佐野市下水道清掃補助金交付要領	目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり			終了年度		一部委託	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					事業分類	
	基本事業	3	雨水排水路の整備					支援事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	一般排水路を清掃する下水道組合に補助金を支出して支援する。また、2本の幹線道路の清掃を、事業委託により実施する ※下水組合とは、下水道清掃を実施する組合及び町会である。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	下水組合を支援することにより、その団体による自主的な一般排水路の清掃を促進する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		清掃回数	回	29	29	29	29	29

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	一般排水路を清掃する下水組合に補助金を出して支援する。ま た、2本の幹線排水路の清掃を業務委託により実施する。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		清掃幹線排水路	m	1,640	1,640	1,640		
		事業費計	千円	669	674	606		
		一般財源	千円	669	674	606		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	一般排水路を適切に管理することにより、雨水幹線排水路の集水 能力が高まり、浸水対策に資する。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		清掃回数	回	29	29	29	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		

効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	費用	費用は下がった	効果は変わらない	効果が下がった		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

地域コミュニティの低下、組合員の高齢化等により、清掃活動が困難である等の相談が寄せられている。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組	取組説明
	組合員の若返り等の促しなどを勧める。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	一般排水路維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課	一般排水路維持補修事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	河川係			項	3	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5213	名称	佐野市公共物管理条例	目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H20	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設維持管理事業	
	基本事業	3	雨水排水路の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	一般排水路、一般下水排水路及び幹線排水路の維持管理を行う。
------	-------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	排水路を適切に管理することにより排水を速やかに河川等に流下させる。調整池を適切に管理することで、設置の目的どおりに放流先の河川への流入量を調節する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市管理一般排水路等苦情要望対応率	%	100	100	100	100	100
		幹線排水路スクリーン清掃実施割合	%	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・調整池の維持管理 ・幹線排水路スクリーンの維持管理 ・一般排水路、一般下水排水路及び幹線排水路の維持管理 ・水路工事、小破修繕、除草、浚渫、清掃等 (修繕料6,743千円、委託料18,184千円、工事請負費8,154千円など事業費33,670千円を実施した。)	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		調整池清掃	箇所	12	12	12		
		幹線排水路スクリーン清掃	箇所	15	15	15		
		危険箇所の小破修繕	件	22	24	22		
		事業費計	千円	36,042	37,378	33,670		
		一般財源	千円	36,042	37,378	33,670		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	調整池の除草、幹線排水路等の幹線のスクリーン清掃（15箇所）を定期的に行い、またその他維持補修を行ったことで、住環境の安全性への対応が出来た。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市管理一般排水路等苦情要望対応率	%	89.5	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		幹線排水路スクリーン清掃実施割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断	効果			効果が上がった ○ 効果は変わらない □ 効果が下がった □
			効果が上がった指標数	0指標		
			効果は変わらない指標数	2指標		
			効果が下がった指標数	0指標		
			指標全体	効果は変わらない		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・一般下水の排水路が老朽化しているため、修繕依頼が多くなってきている。苦情の修繕依頼に対しては年度内に対応出来ているが、今後増える傾向にあるため、予算確保をしていかなければならない。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	①住民が快適に生活できるよう苦情処理の対応を、早期に行う。
	②一般下水等の修繕依頼等の増加傾向による予算確保を行う。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	市道道路冠水対策事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度	
	課	道路河川課	市道道路冠水対策事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路建設係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5213	名称		目	3	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	道路法、道路構造令、下水道法	事業期間	開始年度	H30	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	R7	事業分類	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設等整備事業	
	基本事業	3	雨水排水路の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	本事業では、下水道課で実施している雨水幹線の整備ならびに整備が完了した排水区域内において、雨水排水計画と整合を図った、道路排水を兼ねた側溝等を整備することで、道路冠水や浸水被害の軽減を図ることを目的として、事業が開始となった。また、本事業では、上記のような下水道計画区域以外で、道路冠水や浸水被害が発生している箇所においても、事業を導入し、被害の軽減を図る整備を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	冠水対策を要する路線の道路排水を兼ねた側溝等を整備し、道路冠水や浸水被害の軽減を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		整備済延長（累計）	m	286	456	696	1,006	1,306

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	下記の業務委託及び工事を実施した。 ・市道堀米17号線外道路冠水対策工事に伴う測量及び詳細設計業務委託 ・市道1級3号線道路冠水対策工事 ・市道1級3号線道路冠水対策工事に伴う舗装工事 ・市道犬伏135号線外道路冠水対策工事 ・市道2級109号線道路冠水対策工事	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		工事延長	m	170	0	253		
		事業費計	千円	24,662	7,876	72,952		
		一般財源	千円	62	76	152		
		特定財源（国・県・他）	千円	24,600	7,800	72,800		
		（うち受益者負担）	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	・市道1級3号線、市道犬伏135号線外、市道2級109号線の道路冠水対策工事を実施した区間において、道路冠水等の軽減を図ることができた。 ・市道堀米17号線外道路冠水対策工事の実施に向け詳細設計業務が完了し、工事の準備ができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		整備済延長（累計）	m	456	456	709	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	効果指標	単位	R4	R5	R6		
		整備済延長（累計）	m	456	456	709	値が大きいほど良い	効果が上がった

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・ゲリラ豪雨の発生や土地利用の変化により道路冠水や浸水被害が頻発しており年々その対策が急がれている。今後も地球温暖化の影響により冠水等の被害は増えていくことが予想される。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明	
	・緊急自然災害防止対策事業債が令和7年度まであり、継続した財源の確保が必要である。	
□ 事業効果を上げるための事務改善の検討		
□ 事業費の見直し検討		
□ 業務時間効率化のための事務改善の検討		
☑ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）		

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	田沼地区地域排水整備事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	道路河川課	田沼地区地域排水整備事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	河川係			項	3	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	5213	名称	佐野市公共物管理条例	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	R5	実施方法
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	R10	事業分類
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設等整備事業
	基本事業	3	雨水排水路の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県より、田沼地区の雨水による冠水被害を低減するために、排水路の断面拡張整備が実施される。市は、応分の負担をすることによる必要な排水路を整備する。【第二工区】事業費 235,017千円 排水路 市負担分 2,270m(令和5年度～令和10年度)
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	雨水排水路を整備して内水を速やかに河川に排水することにより、田沼市街地の冠水を低減する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		排水路の整備率(事業費ベース)	%	-	-	18.4	38.8	56.4

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・年度協定及び変更年度協定の締結。 ・栃木県への負担金として、45,770.1千円支出。(排水路 L=360m)	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		整備延長	m	-	357	360		
			m					
		事業費計	千円	0	41,147	45,770		
		一般財源	千円		47	70		
		特定財源（国・県・他）	千円		41,100	45,700		
		(うち受益者負担)	千円					

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	栃木県において、雨水排水路の整備が進み田沼市街地の冠水対策が推進した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	↓選択して下さい
		排水路の整備率(事業費ベース)	%	-	18.4	37.0	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断					効果
		効果が上がった指標数	1指標				
		効果は変わらない指標数	0指標				
		効果が下がった指標数	0指標				
		指標全体	効果が上がった				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・栃木県と協議し、年度計画通り進められるようとする。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
・引き続き栃木県と協議し、年度計画通り進められるようとする。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	界地区道路排水路整備事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	道路河川課	界地区道路排水路整備事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	河川係			項	3	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	5213	名称	佐野市公共物管理条例	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業 期間	開始年度 終了年度	R3 R10	実施方法 事業分類
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり					一部委託
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設等整備事業
	基本事業	3	雨水排水路の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県による県道佐野古河線整備にあたり、県道と市道の排水を兼ねた排水路整備を行う事で、地域の道路冠水の解消を計る。県道排水路と調整池は、佐野市から市道排水分の負担金を県へ支払い、県が整備を行う。事業期間 令和3年度～令和10年度県道部分692m、市道部分359mの合計 1,051mと調整池1池
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	雨水排水路を整備し内水を排水することにより道路冠水を防止することで、市民生活環境の安全を確保する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		水路整備延長	m	0	0	0	0	363
		調整池	箇所	0	0	0	0	1

（3）目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	雨水排水路を整備し内水を排水することにより道路冠水を防止することで、市民生活環境の安全を確保する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		水路整備延長	m	0	0	0	0	363
		調整池	箇所	0	0	0	0	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主要な活動内容)	令和6年度協定及び変更協定を締結した。	活動指標	単位	R4	R5	R6
	栃木県への負担金として、36,632千円支出した。（調整池の用地費及び用地費補償費、調整池造成工事、排水路工事分）	排水路の整備率(事業費ヘ-入)	%	2.2	5.4	24.3
		事業費計	千円	3,252	6,247	36,632
		一般財源	千円	52	47	32
		特定財源（国・県・他）	千円	3,200	6,200	36,600
		（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	栃木県において、調整池の用地買収が完了したこと、調整池及び水路工事が着手となり、道路冠水対策が推進された。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		水路整備延長	m	0.0	0.0	243.9	値が大きいほど良い 効果が上がった
		調整池	箇所	0.0	0.0	0.0	値が大きいほど良い 効果は変わらない

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	栃木県において、調整池の用地買収が完了したこと、調整池及び水路工事が着手となり、道路冠水対策が推進された。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		水路整備延長	m	0.0	0.0	243.9	値が大きいほど良い 効果が上がった
		調整池	箇所	0.0	0.0	0.0	値が大きいほど良い 効果は変わらない

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数 1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数 1指標				
	効果が下がった指標数 0指標				
指標全体	効果が上がった				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・栃木県と協議し、年度計画通り進める。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明
□ 事業効果を上げるための事務改善の検討	
□ 事業費の見直し検討	
□ 業務時間効率化のための事務改善の検討	
☑ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	・引き続き栃木県と協議し、年度計画通り進める。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	公園施設長寿命化事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度	
	課	都市整備課	公園施設長寿命化事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	5214	名称		目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	都市公園法・佐野市都市公園条例・公園施設長寿命化計画策定指針(案)・遊具の安全確保に関する指針	事業	開始年度	H27	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	－	事業分類	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設等整備事業	
	基本事業	4	都市公園の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	公園施設を計画的に補修・更新すること等を位置づけた佐野市公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化して危険性のある遊具等施設を計画的に補修・更新等を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	老朽化、あるいは故障、破損した公園施設を適切に補修・撤去・更新することにより、施設の物理的な危険性が排除された良好な状態にすることで、安全で安心な都市公園を市民に提供する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		更新施設累計÷長寿命化計画対象施設	%	29.1	29.1	6.2	9.2	
		(R7以降は第2期計画策定後)						

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	第1期公園施設長寿命化計画に位置づけているが、未更新の遊具の更新工事に伴う実施設計業務を委託により実施した。新吉水第1公園の4連ブランコ、砂場を更新した。令和5年度からの繰越予算により、8公園（①西部大橋公園、②羽田公園、③多田公園、④西部下公園、⑤浅沼富士之宮公園、⑥下天神公園、⑦田沼千房地公園、⑧内堀米栄公園）12遊具の更新工事を実施した。令和7年2月議会にて13公園20遊具の更新工事補正予算を計上したが、未契約の状態で全額を令和7年度に繰り越した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		更新した施設のある公園数	箇所	0	3	9		
		実施設計した公園数	箇所	0	12	30		
		事業費計	千円	0	42,588	27,851		
		一般財源	千円	0	2,688	1,613		
		特定財源（国・県・他）	千円	0	39,900	26,238		
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0		

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	令和4年度は、事業実施を見合せたことにより、効果指標は前年度同率となっている。令和5年から公園施設長寿命化計画を改定したことにより、更新対象施設数が増加した。これにより更新割合は減少したが、更新済み施設数は増加しており、実質的に事業効果は増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		更新施設累計÷長寿命化計画対象施設	%	29.1	6.2	9.2	値が大きいほど良い	効果が上がった
		(R7以降は第2期計画策定後)						

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	令和4年度は、事業実施を見合せたことにより、効果指標は前年度同率となっている。令和5年から公園施設長寿命化計画を改定したことにより、更新対象施設数が増加した。これにより更新割合は減少したが、更新済み施設数は増加しており、実質的に事業効果は増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		更新施設累計÷長寿命化計画対象施設	%	29.1	6.2	9.2	値が大きいほど良い	効果が上がった
		(R7以降は第2期計画策定後)						

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標			効果が下がった
	指標全体	効果が上がった			

費用	費用は下がった	○
	費用の増減無し	
	費用が増加した	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

①複合遊具へ更新するにあたり、公園利用者への意見を聞き取るため、アンケート調査を実施したが、聞き取り範囲を地元町会のみに限ったため、回収数が少ない。
②長寿命化計画に位置付けられている施設数が多く、担当職員1名では計画を把握しきれず、更新対象施設に漏れが生じる可能性がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
①利用者の意見を調査する際、多くの方に回答いただけるよう調査手法を検討する。 ②どの公園の施設が計画に位置づけられているか、担当係内で共有できる仕組みを構築する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	公園施設長寿命化計画策定事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ
	課	都市整備課	公園施設長寿命化計画策定事業		款	8	新規or継続	新規事業
	係	公園緑地係	根拠法令、条例等		項	4	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	5214	名称	期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業開始年度	R6	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度	R6	事業分類	計画策定・管理事業
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					
	基本事業	4	都市公園の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	公園施設の老朽化に対する安全対策を強化し、ライフサイクルコストの縮減を図ることを目的として公園施設長寿命化計画の策定を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	公園施設の安全点検により老朽化の程度を把握し、時期を得た修繕を実施できるよう、計画を立案する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		長寿命化計画に位置づけた公園数	箇所				153	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	長寿命化計画策定業務を実施するため、健全度調査を実施し、ライフサイクルコストの縮減額を算出し、予防保全型管理施設の対策時期時期・補修更新方法を設定した。また、事後保全型管理施設の更新年度および更新費を設定した。そのうえで長寿命化計画を策定した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		健全度調査実施公園数	箇所			153		
		計画に位置づけた公園数	箇所			153		
		事業費計	千円	0	0	12,914		
		一般財源	千円			6,457		
		特定財源（国・県・他）	千円			6,457		
		（うち受益者負担）	千円			0		

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	公園施設の更新計画が策定されることにより、公園施設を適正に維持管理できるようになる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		長寿命化計画に位置づけた公園数	箇所			153	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		長寿命化計画に位置づけた公園数	箇所			153	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		長寿命化計画に位置づけた公園数	箇所			153	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

（5）費用対効果結果（自動判定）	費用（R6とR5の一般財源増減）	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		長寿命化計画に位置づけた公園数	箇所			153	値が大きいほど良い	効果が上がった

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

計画どおり実施できた。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
 - 事業効果を上げるための事務改善の検討
 - 事業費の見直し検討
 - 業務時間効率化のための事務改善の検討
 - 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）
- 新たに策定した計画により、公園施設長寿命化事業を推進していく。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	公園維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	都市整備課	公園維持管理事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5214	名称	都市公園法 佐野市都市公園条例	目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業	開始年度	実施方法	一部委託	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設維持管理事業	
	基本事業	4	都市公園の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	都市公園171箇所および緑地広場等を季節に応じた維持管理作業を適切に行い、安全性の確保および快適な公園の維持を図る。維持管理作業は、直営・専門業者・シルバー人材センターおよび町会等へ委託して実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	公園利用者に安全・快適に利用してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市民からの苦情・要望件数	件	0	0	0	0	

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	都市公園176公園のうち、運動公園等5公園を除く171公園および緑地広場等の維持管理作業（清掃、除草、樹木剪定、害虫駆除、施設の点検・維持・修繕など）を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		都市公園の面積	m ²	1,561,940	1,596,034	1,595,855		
		事業費計	千円	124,383	139,148	163,535		
		一般財源	千円	122,584	137,514	160,124		
		特定財源（国・県・他）	千円	1,799	1,634	3,411		
		（うち受益者負担）	千円	1,569	1,397	2,008		

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	公園の維持管理は、専門業者への委託を含め、適切な時期に適切な対応を実施することにより、市民へ安全で快適な公園を提供できる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市民からの苦情・要望件数	件	297	247	250	値が小さいほど良い	効果が下がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果			
	効果が上がった指標数		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
	0指標					
	効果は変わらない指標数					
	0指標					
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が下がった指標数					
	1指標					
	指標全体		効果が下がった			

費用	費用は下がった	効果は変わらない	効果が下がった

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

業務委託料などの費用が値上がりしており、必要な予算確保が課題として残る。
公園の維持管理に要する車両や作業用機械が経年劣化しており、更新する必要がある。
樹木に関する苦情が例年多い。遊具の塗装が滞っている。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
維持管理に使用する車両・作業用機械を計画的に更新できるよう検討する。 樹木の状態を確認したうえで剪定・伐採等の計画策定を検討する。 遊具塗装の計画策定を検討する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	公園維持管理車両更新事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ
	課	都市整備課	公園維持管理車両更新事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	5214	名称		目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	R5	実施方法
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり			終了年度	R6	事業分類
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設維持管理事業
	基本事業	4	都市公園の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	都市公園 171公園、河川公園 6公園、公園以外の施設管理 18施設の合計 195施設の維持管理を行っているが、作業に使用する2t トラックが老朽化により故障したため、車両を更新する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	老朽化した車両を更新し、計画的な維持管理作業ができるようになる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		老朽化した車両の更新台数	台				1	

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	2t トラックが納車された。	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		作業用 2t トラックの更新	台			1	
		事業費計	千円	0	0	4,815	
		一般財源	千円			4,815	

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	老朽化した車両が更新されることにより、計画的な維持管理作業で きるようになる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		老朽化した車両の更新台数	台			1	値が大きいほど良い	効果が上がった

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果説明 (定量及び 定性)	老朽化した車両が更新されることにより、計画的な維持管理作業で きるようになる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		老朽化した車両の更新台数	台			1	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果	効果が上がった指標数	1指標		
				効果は変わらない指標数	0指標		
				効果が下がった指標数	0指標		
				指標全体	効果が上がった		

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

公園維持管理作業に必要な車両が更新されたことにより、通常業務に復帰した。
現状ではなんとか使用に耐えているが、取得後20年以上経過している老朽化した車両（2t トラック1台、軽トラック1台、2t パッカー2台）がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	嘉多山公園危険箇所等対策事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	都市整備課	嘉多山公園危険箇所等対策事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	5214	名称	事業期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		開始年度	R5	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度	R7	事業分類	施設等整備事業
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					
	基本事業	4	都市公園の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	嘉多山公園にある蒸気機関車展示箇所付近の石積の倒壊防止対策を行うとともに、正面階段両脇にある石積天端等に転落防止柵を設置し、公園利用者の安全性の確保および快適な公園の維持を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	嘉多山公園の安全性の確保および快適な公園の維持を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		補修、更新した施設数の割合（累計）	%			11.9	62.7	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	蒸気機関車展示箇所付近の石積の倒壊防止工事に着手した。石積の掘削現場に硬質の岩があり、その掘削に不測の日数を要したことから、令和7年度へ事業費を繰り越すこととなった。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		転落防止柵の設置	一式		1			
		石積の崩壊対策	箇所			1		
		事業費計	千円	0	12,573	15,180		
		一般財源	千円		4,246	790		
		特定財源（国・県・他）	千円		8,327	14,390		
		（うち受益者負担）	千円		0	0		

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	階段平場と法面との境に転落防止柵の設置、また、はらみのある石積の改修することにより、公園利用者が安全に公園を利用することができる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		補修、更新した施設数の割合（累計）	%		11.9	62.7	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		補修、更新した施設数の割合（累計）	%		11.9	62.7	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		補修、更新した施設数の割合（累計）	%		11.9	62.7	値が大きいほど良い	効果が上がった

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断	効果
効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体		効果が上がった 効果は変わらない 効果が下がった

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

石積の掘削現場に硬質の岩があり、その掘削に不測の日数を要したことから、令和7年度へ事業費を繰り越すこととなった。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
繰越後、できるだけ早い時期に工事が完成するよう、適切な進捗管理に努める。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	城山公園駅北駐車場維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	都市整備課	城山公園駅北駐車場維持		款	8	新規or継続	継続事業
	係	公園緑地係	管理事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	5214	名称		目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業	開始年度	H23	実施方法
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備		佐野市都市公園条例			
	基本事業	4	都市公園の整備		都市公園法			
					施設維持管理事業			

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	城山公園は、JR佐野駅・東武佐野駅の北側で本市の中心市街地に位置し、多くの市民・観光客が利用している。その公園内にある城山公園駅北駐車場を運営・維持管理し、公園利用者等の利便を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	城山公園駅北駐車場利用者に快適に利用してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		利用者からの苦情件数	件	0	0	0	0	

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	駐車場の運営および維持管理を実施した。 インボイス制度導入に伴い、インボイス対応領収書の申し出のあった利用者へは、インボイス対応領収書を発行した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		開設日数	日	365	366	365		
		利用台数	台	40,640	42,101	41,526		
		事業費計	千円	3,589	3,564	3,762		
		一般財源	千円	0	0	0		
		特定財源（国・県・他）	千円	3,589	3,564	3,762		
		（うち受益者負担）	千円	3,589	3,564	3,762		

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	駐車場の維持管理を委託により適切に実施した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		利用者からの苦情件数	件	0	0	1	値が小さいほど良い	効果が下がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果			
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
			0指標			
			0指標			
			1指標			

費用	費用は上がった	費用は変わらない	費用は下がった
	費用の増減無し		
	費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

駐車日数に制限がない。
インボイス対応領収書を市庁舎またはメールにて、利用者からの申請により発行する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	より多くの利用希望者のため、駐車日数の制限について検討する。		

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	城山公園駐輪場運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	都市整備課	城山公園駐輪場運営事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5214	名称	都市公園法 佐野市都市公園条例	目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H23	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設維持管理事業	
	基本事業	4	都市公園の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	城山公園は、JR佐野駅・東武佐野駅の北側で本市の中心市街地に位置し、多くの市民・観光客が利用している。その公園内にある駐輪場を運営・維持管理し、公園利用者等の利便を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	城山公園駐輪場利用者に快適に利用してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		駐輪場利用者からの苦情件数	件	0	0	0	0	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	駐輪場の運営および維持管理を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		開設日数	日	365	366	365		
		利用台数	台	6,330	6,371	7,516		
		事業費計	千円	1,361	1,236	1,377		
		一般財源	千円	568	391	506		
		特定財源（国・県・他）	千円	793	845	871		
		（うち受益者負担）	千円	793	845	871		

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	駐輪場を適切に維持管理し、利用者に提供した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		駐輪場利用者からの苦情件数	件	0	0	1	値が小さいほど良い	効果が下がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	効果（R6とR5の指標値増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
		0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった			
		0指標						
		1指標						
		効果が下がった				○		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

現在の機器は再リースしているが、今後、機器の劣化状態に応じて更新等を検討する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明	機器の定期的な点検を実施する。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	城山記念館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	都市整備課	城山記念館運営事業		款	8	新規or継続	継続事業	
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	5214	名称	都市公園法 佐野市都市公園条例	目	5	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H23	実施方法	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設維持管理事業	
	基本事業	4	都市公園の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	城山公園は、JR佐野駅・東武佐野駅の北側で本市の中心市街地に位置し、多くの市民・観光客が利用している。その公園内にある城山記念館を運営・維持管理し、各種団体等に多目的室や和室の利用を提供している。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	城山記念館の利用者に快適に利用してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		利用者からの苦情件数	件	0	0	0	0	0

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	会計年度任用職員2名を配置し、城山記念館の運営および維持管理を実施した。 熱中症対策としてクーリングシェルターを開設した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		城山記念館の開館日数	日	303	307	306		
		城山記念館の利用者数	人	15,274	16,181	22,358		
		事業費計	千円	11,136	10,962	13,602		
		一般財源	千円	6,968	4,999	8,353		
		特定財源（国・県・他）	千円	4,168	5,963	5,249		
		（うち受益者負担）	千円	516	589	641		

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	多目的室・和室等の利用者のはか、公園利用者のトイレ休憩や熱中症対策として施設を適切に利用することができる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		利用者からの苦情件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		
			費用は下がった				
			費用の増減無し				
			費用が増加した		○		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

特になし

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	取組説明
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	これまでと同様に、施設の適切な維持管理・運営を実施する。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	日本公園緑地協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	都市整備課	日本公園緑地協会参画事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	5214	名称		目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業	開始年度	実施方法	直営
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	-	事業分類
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					参画事業
	基本事業	4	都市公園の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	日本公園緑地協会へ参画し、同協会発行の機関誌やメール等から最新の情報を収集し、事務事業に活用する。 (日本公園緑地協会の活動：総会、研修会、講演会の開催および都市公園の管理に関する情報収集と会員への情報提供)
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	協会に参画することにより、都市公園についての最新情報を得ことができ、職員が事務事業に活用できる状態にする。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市民からの苦情・要望件数	件	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	(市の活動) 日本公園緑地協会への負担金の支出。 同協会発行の機関誌やメール等から最新の情報を収集し、事務事業に活用した。 (日本公園緑地協会の活動) 総会、研修会、講演会の開催および都市公園の管理に関する情報収集と会員への情報提供。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		都市整備課の職員数	人	23	23	23		
		日本公園緑地協会の会員数	団体	933	933	932		
		事業費計	千円	50	50	50		
		一般財源	千円	50	50	50		
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0		
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0		

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	協会から情報を収集するとともに、協会主催の研修会等に参加し、公園運営の参考とした。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市民からの苦情・要望件数	件	297	247	250	値が小さいほど良い	効果が下がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	効果 (R6とR5の指標値増減)	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果			
		0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
		0指標					
		1指標					○
		指標全体		効果が下がった			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

都市緑地法をはじめ、関係法令等の改正が行われた。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 今後も継続して日本公園緑地協会に参画し、都市公園に関する情報収集を行う。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	都市公園安全安心支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	都市整備課	都市公園安全安心支援事業		款	8	新規or継続	継続事業
	係	公園緑地係			項	4	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	5214	名称	根拠法令、条例等	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業	開始年度	R4	実施方法
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		期間	終了年度	－	事業分類
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					施設等整備事業
	基本事業	4	都市公園の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	公園の出入口からトイレまでの園路およびトイレのバリアフリー化を図り、合わせてトイレの水洗化を行う。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	公園施設をバリアフリー化して、利用者の安全安心を確保する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		バリアフリー化する施設数（累計）	箇所		11	15	19	21

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	京路公園、わしのみや公園、山崎公園、吉水新田公園のバリアフ リー化および汲取り式トイレの水洗化工事を実施した。 山崎公園、栃木公園、吉水新田公園のバリアフリー化工事に伴う 設計業務を委託により実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		バリアフリー化した公園数	箇所	3	4	4		
		実施設計した公園数	箇所	6	3	3		
		事業費計	千円	41,184	63,965	80,218		
		一般財源	千円	4,584	4,992	15,120		
		特定財源（国・県・他）	千円	36,600	58,973	65,098		
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0		

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	4つの公園の出入口からトイレまでの園路のバリアフリー化および汲 取り式トイレを水洗化しバリアフリートイレに改修することで公園利用 者の安全安心を確保できる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		バリアフリー化する施設数（累計）	箇所	11	15	19	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	効果指標	単位	R4	R5	R6		
		バリアフリー化する施設数（累計）	箇所	11	15	19	値が大きいほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	費用が増加した	効果					
		1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった			
		0指標						
		0指標						
		効果が上がった						

4. 次年度に向けた検討

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

①昨今の物価高騰の影響から、ユニット式トイレの価格も上昇している
②水洗化されている和式トイレを有する公園のトイレ洋式化およびバリアフリー化をして欲しいとの意見がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	①現状の計画では、令和7年度の更新工事をもって、汲み取り式トイレの解消は図れるが、今後、更新するトイレの施工方法（ユニット式とするか現地での建築とするか）を検討する必要がある。
	②和式トイレの洋式化を検討する必要がある。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）